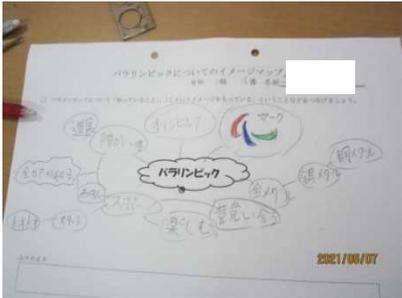
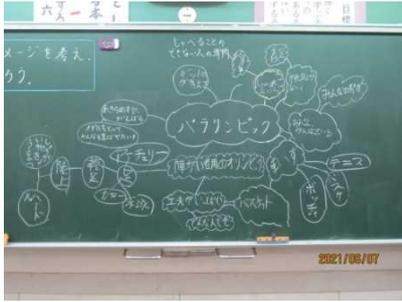


令和3年度「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」  
事業実施報告書

- I スポーツ及びオリンピック、パラリンピックの意義や歴史に関する学び  
II マナーとおもてなしの心を備えたボランティアの育成  
III スポーツを通じたインクルーシブな社会（共生社会）の構築  
IV 日本の伝統、郷土の文化や世界の文化の理解、多様性を尊重する態度の育成  
V スポーツに対する興味・関心の向上、スポーツを楽しむ心の育成

道府県・政令市名【 茨城県 】

学校名【 小美玉市立納場小学校 】

1 実践テーマ	Ⅲ
2 実施対象者 (学年・人数)	6年1組 22名 6年2組 22名 計 44名
3 展開の形式	(1) 学校における活動 ① 教科名 ( 総合的な学習の時間 ) ② 行事名 ( オリンピック・パラリンピック講演会 ) ③ その他 ( 納場小ミニパラリンピック (NMP) の開催 ) (2) 地域における活動 ① イベント名 ( ) ② その他 ( )
4 目標 (ねらい)	オリンピック・パラリンピックに対する興味・関心を高めるとともに、 スポーツに親しみ、インクルーシブな社会を目指す意識を高める。
5 取組内容	(1) 導入：パラリンピックを知ろう ①パラリンピックのイメージマップづくり ・障害者スポーツの存在を知り、学年全体での情報を共有した。   ②「I'm POSSIBLE」の活用 ・オリンピック・パラリンピックへの興味・関心を高めるとともに、障害者スポーツに取り組む人々の実態について知る活動を行った。 ・障害者スポーツに関するクイズを行い、歴史や使用する道具などへの理解を深め、興味・関心を高める活動を行った。 (2) 展開：オリンピック・パラリンピックを体験しよう ①納場小ミニパラリンピック (NMP) の準備 ・納場小ミニパラリンピック (NMP) では、ボッチャとシッティングバレーボールを行った。NMPに向けて「開・閉会式係」、「ルール作

成係」、「準備係」、「表彰係」の4つのグループを立ち上げ、すべて児童が主体となって準備した。



## ②納場小ミニパラリンピック（NMP）の開催

場所：納場小学校体育館

運営：第6学年

開・閉会式と試合、表彰式を含め、3時間扱いで行った。



(3) まとめ：パラリンピアン（小池岳太氏）の話を聞き、障害者スポーツとパラリンピックの今後の展開について、さらに理解を深める。

- ・オリンピック・パラリンピック講演会の実施

（演題：「自分の可能性を信じて」）

- ・パラリンピックアルペンスキー出場を目指す小池岳太氏を招聘し、講演会を行った。講演を聞くことや片手靴紐結び体験などを通して、障害のある人々の生活の実際を聞いたり、体験したりした。



## 6 主な成果

- ・導入教材として、パラリンピック教材「I'm POSSIBLE」を視聴することにより、障害者スポーツの意義と現状、パラリンピック委員会の取組について詳しく知ることができた。児童の興味・関心を高めるきっかけをつくることができた。
- ・納場小ミニパラリンピック（NMP）を実施するために、児童主体の企画、準備、運営を行った。競技の進行も児童の手で行ったため、パラリンピックを成功させるために何が必要なのかを真剣に考えることができた。準備段階では、タブレットや聞き取りを通して、パラスポーツへの理解を深めることができた。
- ・パラスポーツを体験し、スポーツ全体に工夫があることに気付くことができた。「ボッチャ」では、球を投げる方法やコートの広さなどを調べ、競技の難しさを実際に体感できた。「シッティングバレーボール」では、ぶつかり合う危険性や座りながらボールを返す競技性に触れることから、コート作りやネットの張り方に工夫があることに気付くことができた。

	<ul style="list-style-type: none"> <li>パラリンピアンによる講演会では、北京パラリンピックを目指すトップアスリートの話を書くことを通して、障害者スポーツの実際や小池岳太氏の生き方を学び、自己の生き方や将来の可能性について見つめる機会となった。</li> </ul>
7 実践において工夫した点 (事業の特色)	<ul style="list-style-type: none"> <li>実際に障害者スポーツを体験する場面をつくったことで、より身近なものに感じる事ができた。</li> <li>障害者スポーツを体験する際に、児童主体の活動とすることで、ルールや競技場の設定など、より詳しく調べようとする意欲を高めることができた。また、タブレットを活用しようとする姿が見られ、調べ方に広がりをもたせることができた。</li> <li>現役パラリンピアンを招聘することにより、障害者スポーツの最前線を知ることができた。また、一流のパラリンピアンの生き方を学び、自己の生き方について考え、これからの生活の仕方について考えようとする意欲の高まりが見られた。</li> </ul>
8 主な課題等	<ul style="list-style-type: none"> <li>今回は、オリンピック・パラリンピック講演会を開くにあたり、オンラインでの計画を進めていた。しかし、感染状況が改善に向かっていったため、対面での講演会を開くことができた。教育委員会の特段の配慮により、学校での実施が叶えられたが、コロナ禍において、パラリンピアンを招く難しさを感じた。直接招く方法とオンラインの両方に柔軟に対応できる体制を構築しておく必要がある。Meet、Zoom等を研修しておく必要性を感じた。</li> <li>休み時間になると、教室に残って過ごす児童が見られる。生涯にわたってスポーツに親しむ意識が更に高まるよう声かけをしていきたい。また、オリンピック・パラリンピック講演会の実施後に、キャリアパスポートを活用し、定期的な振り返りの時間が必要であると感じた。単発的な学習としないために、生活の振り返りを大切にしたい。</li> </ul>
9 来年度以降の実施予定	<ul style="list-style-type: none"> <li>今年度実施した内容は、「総合的な学習の時間」や「道徳」、「学級活動」など、教科を横断的に扱える内容である。様々な取組を各教科や領域などに取り入れていきながら、パラリンピックについての理解を深めていきたい。そして、インクルーシブな社会へ参画できる人間性を育てていきたい。</li> </ul>